

第8課「讚美の雰囲気」

* 神は私たちが生きてゆく為に必要な環境を造って下さり、それを保って下さっている。愛と恵みの中で私たちは生かされ、健康が支えられ、育まれている。その神の愛を受ける私たちは、神が愛されるように他者を愛することを期待されているのだろう。私たちの周りに満ちる空気のように、私たち自身の存在も、きっとこの世界に様々な影響を及ぼしているのだろう。平和をつくり出す者として歩むことができれば幸いだ(マタイ5:9)。

1. 「空気」より受ける教訓

- **計画的な創造**：神は生物が育成する為に必要な環境をまず備えられ、植物、動物、人間と順に被造物を創造された。これは神の愛を表現している。地球が混沌と闇と深淵と水という漠然とした形の無い状態であった時に、神は地球の創造に取りかかられた。そんな状態の中で神の存在があったことを示す言葉が「神の霊が水の面を動いていた」(創世1:2)である。
- **空気とは**：空気の成分(乾燥時)を見ると、窒素(約78%)、酸素(約21%)、アルゴン(約0.9%)、二酸化炭素(約0.03%)の主要成分とネオン、ヘリウム、メタン、クリプトン等の微量成分で構成されている。この成分の絶妙なバランスによって私たちは生きている。また、環境によっては(高山など酸素が希薄な場所、スキューバダイビングなど水中の気圧が高い場合等)バランスを変えることによって身体に適應させたりする。空気は目に見えず、普段はその存在を意識することはないが、常に身の回りにあり、人が生きるのに無くてはならないものである。ちなみに酸素は水によって作り出される(水は水素原子×2と酸素原子×1をもって構成される)。
- **命の息**：アダムの創造の際、神はその鼻から「命の息」を吹き入れられた(創世2:7)。命が吹き込まれ人は息をし始めた。呼吸は命ある証拠の一つであり自然になされる。私たちが生きているのは決して当たり前のことではなく、神あつての故であり、神による奇跡であることを忘れてはならない。
- **空気の働き**：空気は太陽の熱と地球外の真空による冷たさから地球を守っている。また、水や数多くの化学物質を循環させることにより気候を人間が生きてゆくのに適應したものへと和らげている。また、生物はそれぞれ生存する条件が異なるのだが、地球上の環境や気候を(緯度や緯度、高低度、地形等による大きな変化に対して)微妙に変化させながら、絶妙なバランスで生かされ、保たれている。
- **共存のシステム**：神は理想的な環境としてエデンを人の住処として与えられた。あらゆる木々や植物が茂り、綺麗な水が流れ、そこから酸素やマイナスイオンが満ち、空気は常に新鮮に保たれていた。罪が地球に及んだ後も、大自然はこのシステムを保ち、私たちの命を支えている。環境を守ることは私たちの務めである。

2. 空気と健康

- **命を支える空気**：私たちの身体の中で最も酸素を必要とするのは脳であって、4分以上酸素が断たれると脳細胞は死に始める。また、私たちの身体は常に酸素を必要としており、常時約2リットルの酸素が身体に流れている。まさに命を保つ為に必要なものである。
- **空気の汚染**：都市部において空気の汚染は深刻な問題である。排ガスや二酸化炭素の増加等の広い範囲での汚染。換気の悪い環境や喫煙等による身の回りの汚染。いずれも身体に多大なダメージを与えている。アレルギー性の疾患(喘息や花粉症等)、偏頭痛や悪心、吐き気、目や呼吸器の病気など、私たちが苦しめる元となっていることが多い。
- **綺麗な空気**：綺麗な空気は屋外、特に自然環境の整ったところにある。森林浴(光合成によって二酸化炭素を吸収し酸素を供給)や流れる水のそば(川、湖、滝、雨等)に行く事は、新鮮な空気を作り出す場所にいる事である。田舎に住む事を積極的に考えてもいいのかもしれない。また、日々の生活の中で、ちょっとした気遣いや意識で空気を取り入れることもできる。戸外での運動、深呼吸、室内に空気を入れる等、気をつけてみたい。(※現代は「酸素カプセル」や「酸素バー」等、有料で酸素供給をする方法がとられている)

3. 天国の雰囲気をかもし出す

- **空気を読む**：KY(「空気が読めない、読めてない」のローマ字の頭文字)という言葉がある。そもそも「空気を読む」とは「場の雰囲気を察する」という意味があり、気遣ったり、配慮したりという他者を大切に扱う事であると思う。これは、目に見える訳ではないが、社会的営みに必要であり、人に影響を及ぼすというところで「空気」と似ているのかもしれない。いずれにしろ人はその存在があるというだけで他に対して影響を与えている。だからこそ、キリストに似た良い品性を養いたいと願う。天国の雰囲気を伝える者になりたい。
- **天国の雰囲気(讚美)**：天国の雰囲気をどう例えたらいいのか私たちに解らない。私たちはまだ天国に行っていないし実際の雰囲気を経験した事も無い。しかし、聖書は天国の雰囲気をイエス・キリストを通して示して下さっている。凝縮すると「感謝と喜びと讚美」ではないだろうか(ヨブ38:6~7、詩篇103:20~22、詩篇148:2、ルカ15:7、黙示21:4)。私たちは聖書と自然(神の創造の業)を通して、イエス・キリストと出会い、その愛に触れる。つまり、罪人である事を知り(罪の自覚)、救いを求める。それに応えて下さるのが神である。イエスの贖いとその犠牲、人として正しく生きる事の模範を知る。さらに自分の無力さを自覚し、神に自らを委ねる。恵みと愛によって私の心の中から良き変化が生まれてくる。その純粋な喜びを全身全霊をもって表現する。それが神に献げる讚美である。私たちは地上の小さな天国を、自分の周りから作り上げてゆきたい。